

リファインホールディングス、鹿児島県和泊町と 未利用資源の有効活用に関する連携協定を締結 ～沖永良部島の廃石灰を 100%バイオマス素材に活用し、 ごみ袋「リジェノバック」や食品容器を開発～



写真中央左・鹿児島県和泊町長：前登志朗氏、中央右・当社代表取締役社長：川瀬泰人

リファインホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：川瀬泰人、以下「当社」）のリジェネイチャー推進室は、鹿児島県和泊町（町長：前登志朗氏）と「和泊町の未利用資源の有効活用等に関する連携協定」を締結しました。協定締結式は、2026 年 9 月 4 日（金）に和泊町役場で行われました。

本協定では、沖永良部島で発生するサンゴ由来の副産物である石灰（以下「廃石灰」）を活用し、当社の 100% バイオマスコンパウンド「RegeNature®（リジェネイチャー）」によるごみ袋「リジェノバック」や食品容器の開発を進めます。地域の未利用資源を暮らしに身近な製品へ生まれ変わらせ、廃棄物と石油由来原料の削減、地域内で資源を循環させる仕組みづくりを目指します。

■ 協定締結の背景

今回活用するのは、和泊町後蘭浄水場で発生する（隆起サンゴが雨水で溶解することによって生じる）廃石灰です。現在も肥料として利用されていますが、すべてを活用しきれないことが課題となっています。

そこで、廃石灰を RegeNature® の成形材料の一部として活用し、ごみ袋や食品容器などへの転換を検討します。和泊町の地域資源に関する知見と当社の材料開発・成形技術を組み合わせ、回収から素材化、製品化、地域での利用までをつなぐ循環モデルの構築を目指します。

■ ごみ袋「リジェバック」の開発

「リジェバック」の開発には、溶かした材料を筒状に押し出し、空気で膨らませて薄いフィルムにする「インフレーション成形」を活用します。

この成形方法では、均一な厚み、安定性、袋としての強度や柔軟性が求められます。当社は、100%バイオマス機能性材料「RePlant(リプラン)」の処方や、廃石灰の粒子サイズ・配合比率を調整し、ごみ袋に適した材料を設計します。

そして、沖永良部島の地域資源を活用した「リジェバック」の実現を目指します。

■ 食品容器への展開

食品容器については、廃石灰を配合した RegeNature® の成形性、強度、耐熱性、耐水性などを評価し、用途に応じた製品仕様を検討します。安全性および関連法令・基準への適合も確認しながら開発を進めます。



食品容器



ごみ袋「リジェバック」

■ RegeNature® について

RegeNature® は、石油由来原料を使用しない100%バイオマス機能性材料「RePlant」を基材に、竹、木材加工くず、貝殻、コーヒークず、茶殻、もみ殻、古紙などの未利用資源を配合した成形材料です。

RePlant を組み合わせることで、本来は熱で溶けない自然素材に熱可塑性を持たせ、射出、シート、ブロー、発泡、インフレーションなど多様な成形方法への展開を進めています。

未利用資源を身近な製品に生まれ変わらせ、石油由来原料への依存低減、廃棄物削減、地域資源の循環、CO₂排出量の低減に貢献します。

2025年7月には、日本有機資源協会の「バイオマス100マーク」を樹脂・成形材料区分で取得しました。単独で成形可能な材料としての取得は、当社調べの範囲で前例がありません。

■ 協定締結式の概要

- ・ 日時：2026年9月4日（金）9:30～10:00
- ・ 場所：和泊町役場 結いホール
- ・ 協定名称：和泊町の未利用資源の有効活用等に関する連携協定
- ・ 出席予定者：
リファインホールディングス株式会社 代表取締役社長 川瀬泰人ほか
和泊町 町長 前登志朗氏ほか

■ 会社概要

- ・ 社名：リファインホールディングス株式会社
- ・ 代表者：代表取締役社長 川瀬泰人
- ・ 本社所在地：東京都千代田区丸の内2丁目2番1号 岸本ビル11階
- ・ 設立：1966年
- ・ 従業員数：744名（連結）
- ・ 事業内容：有機溶剤に関わる化学事業、資源循環事業、天然資源飼料開発事業など
- ・ URL：<http://www.refine-hd.jp/>

◇報道関係者からのお問い合わせ先◇

リファインホールディングス株式会社
経営企画本部

E-mail：info@refine-hd.jp

TEL：03-3201-3357